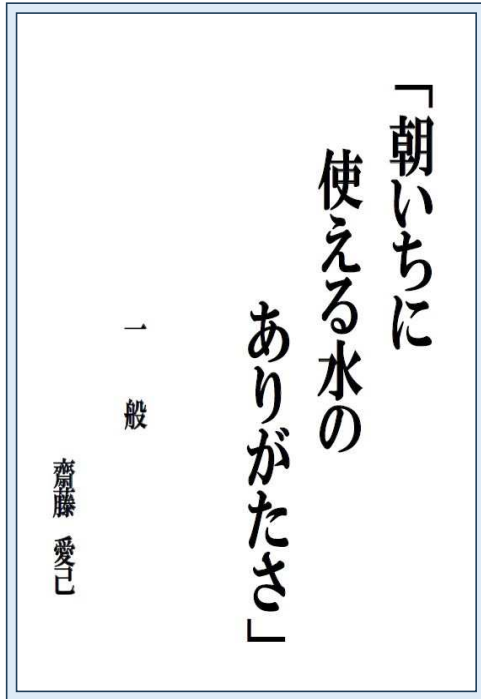
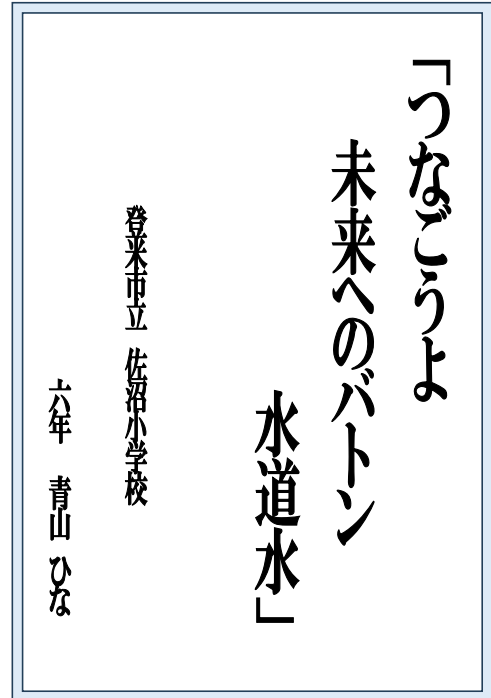


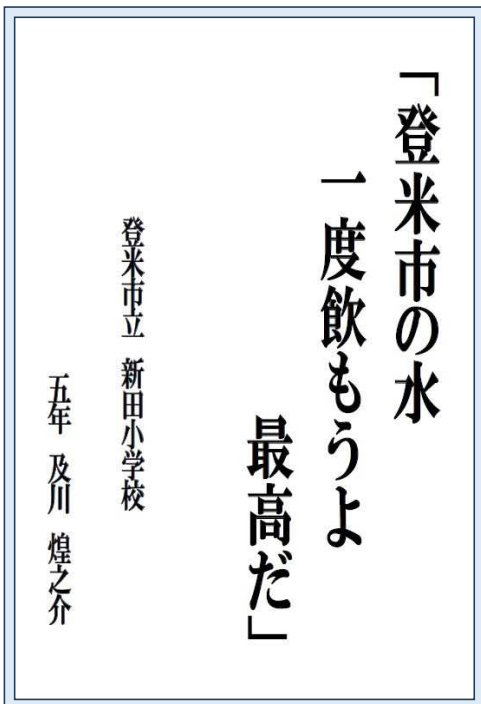
【標語の部】



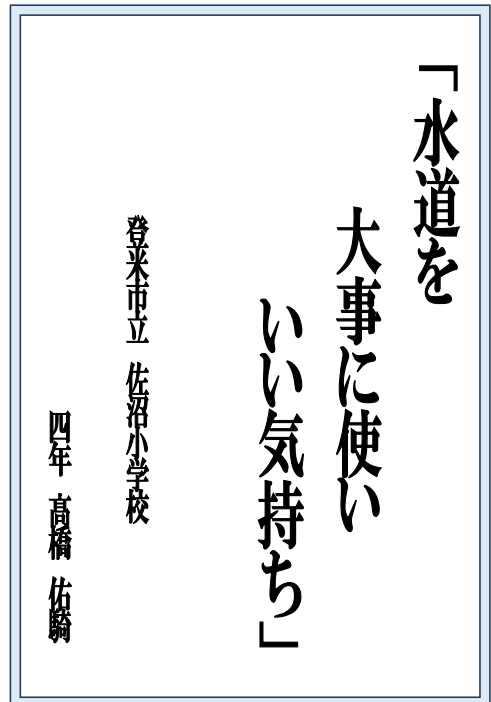
【特選】 齋藤 愛己



【入選】 佐沼小学校 6 年 青山 ひな



【入選】 新田小学校 5 年 及川 煌之介



【入選】 佐沼小学校 4 年 高橋 佑騎

【作文小学校高学年の部】

【特選】佐沼小学校6年 二瓶 昂

水はみんなの命
二瓶 昂

ぼくは、学校から帰ってくると、水道から出てくるきれいな水で手を洗います。ばい菌やウイルスからぼくを守ってくれます。また食事でも水が不可欠です。にじりのない水で米を研ぎ、おいしいごはんが食べられます。暑い事で汗をかいた時には、水道から出てくる水を飲むこともあります。泥だらけになったユニフォームを洗う時にも、水が必要です。ぼくを守ってくれる水、体を作ってくれる水のどろろおしてくれる水、水があるからぼく達は生活することが出来るのです。そんなぼくは、初夏になると田んぼから聞こえてくるカエルの鳴き声が好きです。ここにいるよと遠くから教えてくれているよ、うな気がします。夏になると、ぼくは毎年カブトムシを育てます。毎日、かごの中をきりふきでしめらせたり、ゼリーを取りかえて大事に育てています。

B4 (20×20) こだま原稿用紙は再生紙を使用しております。

二
2

ぼくは小さいころから生き物が好きで、図鑑で色々な生き物を調べてきました。キャンプに行ったり、朝つゆにぬれた葉っぱにキリギリスがしまっているのを見たこともあります。生き物にも、水が必要なのです。そんな生き物を大切に思うぼくが今気になっていることは、川や海の水の汚れです。キャンプに行ったり、川に沢山のごみ捨てられていたのを見ました。そこでは、魚がごみをさけながら泳いでいました。こんな水の中で魚は本当に生きられるのか、心配して泳いでいるのか、気になって調べてみました。すると、人が捨てたごみや生活の中で出た汚れた水のせいで、魚たちが生きづらくなっていることが分かりました。ごみをエサとまちがえて食べてしまったり、汚れた水で体をこわしてしまったりすることもあるのです。その原因は、人間にあるのかもしれません。例えば、油で汚れたお皿を水で洗って、その水が川に流れていくこと、人間にとって使

B4 (20×20) こだま原稿用紙は再生紙を使用しております。

利なものを作る時に出る汚れた水を流してしま
 うこと。人間の生活が水を汚しているのか
 もしれません。
 でも、人間はこのまま自分たちのことだけ
 を考えて、生活していくのが本当に正しいの
 でしょうか。水は人間だけのものではありま
 せん。カエルもカブトムシも魚も、生きるた
 めにはみんな水を必要としています。水は皆
 んなのものなのです。
 人間の生活では当たり前のように、ジャコ
 もひねれば、きれいでにのりがない水が出て
 きますが、それは当たり前のことではないの
 です。きれいな水があるから、安心して生活
 できるのです。でも、カエルもカブトムシも
 魚も、水が汚れていても何も言えません。に
 がることも、どうにかすることもできません。
 でも人間はちがいます。人間にはそれを変え
 る力があるのです。
 ぼくは「自分にできることはなんだろう」
 と考えました。お母さんが、油で汚れたお皿

を、使わなくなった。たやーパーでふいてから洗
 っているのを見て、ぼくも真似しておきました。
 何度もお皿を洗わなくて済むように、お皿の
 汚れをふき取ってから別の料理をのせるよう
 にしておきました。習い事で泥だらけになった
 服を洗う時も、お母さんは汚れをうがせてか
 ら一度で洗うようにしていて、そんな工夫が
 あることも知りました。くらしの中には、小
 さな工夫が出来る場面が沢山あるのです。
 ぼくは、人間だけが、水道から出てくるき
 れいな水で生活することが、正しいことだと
 は思いません。人間には生き物を想い、水の
 使い方を考えて、そしてそれを変えていく必
 要があると思います。水は人間だけのもの
 はなく、みんなのものなのです。みんなが安
 心して暮らせるように、難しいことはできな
 くて、身近に出来る小さな工夫から、じん
 じりとして少しずつやさしい暮らしに変えて
 いくことが出来ると思います。

平和な水

東和小学校 五年 千葉 雪乃

(そんな大変なときがあったんだ)

おばあちゃんの話聞いて、びっくりしました。おばあちゃんの話というのは、おばあちゃんの子供のころの水についての話です。

昔は、水道がなく、自分の家の井戸から水をくんでいたそうです。雨がずとふらないと井戸の水がなくなり、水が出ないと大変なことがあったそうです。水が出ない時は川にバケツを

持って行って水をくんで家に運んだそうです。水を手に入れるために、こんなに苦労したことがよくわかり、昔の人は大変だったなあと思いました。

今は水道があるから、うちで水が出なくなることがないので本当に助かる。

と、おばあちゃんは言っていました。あたしたちは、いい時代に生きていると思いました。

「東日本大震災の時にはどうだったの」と聞いてみたら、お母さんが

「電気が止まったので、水も出なくて大変な

ったよ。料理ができないうし、食器も洗えないうし、お風呂にも入れないし、手も洗えなかつたんだよ。水が出るまで、すごく不便な生活をしていたんだよ。」

と言いました。昔や、大震災などがあつたときは、水がなくて本当に大変になることがあかりました。

野菜を育てるにも水が必要で、料理の時も洗う・にる・米をたく・などなどたくさん

水が必要です。日本の食生活になつてはならない飲み物のお茶、みずみずなどは、水がなければ飲めません。夏の熱中症予防にも水は大

切です。暑いときに冷たい水をごくごく飲むと気持ちがいいです。また、手を洗えなかつ

たら不衛生で病気になつたりしてしまいます。このように、あたしたちが生活するために水

は欠かせない大切なものだということを実感しました。いつでも清潔な水をひけると、き

れいな水が出る日本は平和な水の国です。

しかしこの前、ネパールの国の水について
調べたとき、わたしたちが手帳に使っている
じゃ口がないことにびっくりしました。さら
に、安全ではない水を飲んで、病気になっ
てしまう人もいるということでした。また、水
が出るところが少なく、水が出る井戸のこ
ろや川に大きな入れ物を持って、毎日水をく
みに行くこともおどろきました。そして、そ
の水をくむ仕事はわたしと同じくらいの子供
や女の人といふので、本当に大変な仕事だ

あと思いました。水くみなどの時間で、自分
がやり下いことができなかったり、なりた
い夢になれなかったりするそうです。もしわ
たしがそうなら、毎日が不便でつらいと思
います。

ネパールの様子を伝えることで、わたしが
いる今の日本は本当に恵まれていると思いま
した。世界中の人たちも、おいしい水を苦
労せずたぐって飲んで、衛生的に使い、病
気などが出ないようになり、水でこま
まわっている人が

いなくなってしまうのです。
日本赤十字社やたぐさんのボランティアの
人たちが、世界中の水の環境を改善する活動
をしていることも知りました。おどろくほど安
心な水を飲んだり使ったりできるよ
うに、世界中の人が助け合うことが大切だと思いま
す。世界中の人たちの生活が、きれいな水の
ようにきらきらかがやき、安心して過ごせる
平和な水が守られるようにわたしは願っ
ています。

コクヨ ケー10 20×20

コクニ ケー10 20×20

かんがはんとはい「たん水」も、多くは、水
 があ、たりして、じっさいわたしたちが使
 える水は、全体の約0.01パーセントなの
 ではないですか。
 わたしたちが使える水は、0.01パーセ
 ントしかないことにもおどろきました。
 わたしはこの学習でとてもおどろいたこと
 がたくさんありました。とくにいんしやうに
 のこったことは、野菜や洗たくを、河川で洗
 えることです。洗えることは、きれいなたも
 っているというところがすごいなと思いまし
 た。
 そしてこれがらの生活できをつけたいこと
 がありました。それは、水道をだし、はなし
 にしないことです。あたりまえなことから気
 をつけて、あたりまえにできるようにするた
 めです。ま、もう少し気をつけることがで
 きると思うので、生活しながら見つけていき
 たいです。
 わたしはスイミングスクールにかよっ
 てい

ます。スイミングスクールでは、たくさん
 の水とかがあっています。
 そう考えると、これから水の大切さを考
 えながら一生けん命練習をかんばっています
 と思います。
 わたしは、まだおさないのでも世界に水をと
 どけることは、できません。それでも、ぼん
 など自分ができることで世界に、笑顔をとど
 けていきたいです。

おいしい水を世界へ

六年 青山 ひな

わたしたちは毎日たくさんの水を飲んだり、日々の生活に使ったりしています。わたしは今、当たり前前に水を使える生活を未来へつなげていきたいと思いました。

わたしは、世界の水不足に着目しました。

世界で水不足になっていく人は二十億人で、世界中のたくさんの国で水不足が課題になっています。なぜこんなにもたくさんの人が水

不足になっているのでしょうか。

主な理由として、経済的な問題が挙げられます。開発途上国のインドでは、水道を作するための経済的な余裕がありません。そのため給水車がやってくるまで早く水を手に入れようとたくさんの人が群がります。

さらに人口増加が追い打ちをかけ、水道が欲しい人はさらに増えます。ですが、経済的な余裕がないため、水を届けようとしても水道は設備できないのです。

そして、インドでは生活や工業排水の下水処理率は十パーセントと非常に低いです。これも水不足の理由になります。これにより、インドでは、水道水をそのまま飲むことができません。日本のように水道水がそのまま飲める国はそう多くはないのです。

わたしは、世界の水不足を解決するために、お店で売れ残ってしまったペットボトル飲料を、水不足で苦しんでいる国に送ることを考えました。そのまま飲むのは衛生的によくない

いと考えたので、生活用水に使ってもらったり、うかの仕方書かれた説明書を作って付属するなど、たくさんの工夫ができると思いました。発送にはたくさんのお金が必要になります。募金を集めれば、日本全国の人や世界のために役に立っているといえます。世界のためにみんなが役に立てば達成感もあるし、世界の人も楽になります。

ですが、船などで発送する際に燃料費を日本が負担すると、とっても高いほどのお金か

かかります。募金が必要なのはそのためです。
わたしたちが大人になった時には、たくさん
の人が水不足にならない世界になってほしい
と思います。

わたしは、もう一つ解決策を考えました。

日本は、雨がたくさん降ります。その雨水を
使えば、生活用水に変わります。他にも、野
菜を育てるための水になり、それだけで日本
の節水にもなります。これを実施することに
よって、日本が未来で水不足になることを防
ぐことになるのです。

世界と日本を比べてみるとどうでしょう。

日本は一年を通してたくさんの雨が降りま
す。そのため、雨水を貯めることができるの
で水不足になりにくいのです。

さらに、日本は高度な浄水設備があります。
四年生の時に浄水場見学に行きました。その
時に、水道水がいしく飲めるのは浄水場の
設備のおかげだと思いました。また、日本に
は、水道が隅々まで設備されています。水道

20x20

の普及率が高いことで、たくさんの人が水の
恵みを受けながら育っているのです。みなさ
んもぜひ一緒に水不足について考えてみま
せんか。

世界のたくさんの方のために、わたしは、
水不足についてもっとくわしく考えることが
大切だと思いました。一人一人が高い意識を
もつことで、日本の未来に起きるかもしれな
い水不足を未然に防ぐことができるのです。

20x20